

＊すてきな人を見つけました！

数日前、スーパーマーケットで20歳半ば～30歳前半と思われる若いお母さんを見て感心しました。

その方は、6～7か月くらいのお子さんと2歳くらいのお子さんを連れて買い物をしていました。片手で乳児を抱きかかえ、楽しそうに動き回っている幼児に声をかけながらのお買い物です。私は子供たちが小さかった時、あんなに落ち着いて買い物ができるのだろうか？買い物のたびに、上の子を注意ばかりしてイライラしていたのでは・・・。子供連れの買い物が、「体力的にも精神的にも疲れてしまいそう」と思うのは、私の勝手な思い込みで、彼女はあまり負のストレスを感じていないのだろうなあと思いました。



物事はとらえ方、考え方次第といわれます。第三者からみれば、ほんの些細なことでも大きなストレスと感じる人もいれば、大変そうと思われることもあまり苦しめない人もいます。どちらが良いとか悪いとかではなく、個人差なのだと思いますが、細やかな気配り、目配りをしつつ、おらかな対応ができる人を見ると、すてきななあと感じます。

上のお子さんが楽しそうに動き回っていたのも、きっとお母さんがおらかに接しているからなのでしょうね。

＊記憶に残る味

先日、私はお盆のお参りのため、久しぶりに親戚を訪ねました。

おじさんやおばさんに会い、今は亡き祖母の写真をみると、子供のころ遊びに来た日のことをいろいろと思い出しました。私の家は、家族で旅行やレジャーを楽しむ習慣がなかったので、子供の私にとって親戚の家にお邪魔することは特別な行事でした。

しかも、お盆やお正月に伺うので、食卓にはたくさんのごちそうが並びます。祖母は手間を惜しまないで料理をつくる人でしたし、その娘であるおばさんは、給食を作る



仕事をしていたので、親戚が集まり大人数になってもすべてが手作りで本当においしいハレの日の食事でした。今回も、私はおばさんが腕によりをかけて作ってくれた料理をごちそうになってきました。大人になった今、「人をもてなすとは、こうゆうことだよなあ」とつくづく思いました。

私は、わが子にも、記憶に残る、思いのこもったハレの日の料理をぜひ食べさせたいと思い、おばさんが作ってくれたお赤飯やおはぎをちゃっかりいただいて帰ってきました。

私も家族の思い出に残る料理が作れるようになりたいものだと思います。